戦争法案は絶対廃案

戦争法案の採決をめぐり国会が緊迫する中、各地でデモや集会が開かれ、何としても廃案をと、意気高く行動に取り組みました。

1万5千人声上げる
埼玉で駅前集会

戦争法案の採決をめぐり国会が緊迫するなか、「オール埼玉総行動」実行委員会は4日、さいたま市の大宮駅前で街頭集会を行いました。駅前のデッキや歩道、階段に人があふれる1万5000人（主催者発表）が参加し「戦争法案いますぐ廃案！」と声を上げました。

「九条の会」事務局長の小森陽一東京大学大学院教授は、元最高裁長官が戦争法案は違憲だと明言したことを紹介。「私たちは主権者として白黒をはっきりつけ、憲法違反の法案をただちに廃案に追い込もう」と訴えました。

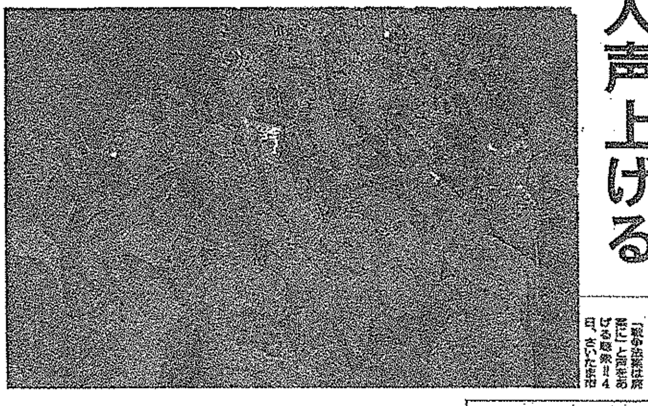
浜矩子（のりこ）同志社大学大学院教授は、戦争法案反対の国民の運動が情勢を変化させ、政権を焦らせていると述べ「（安倍政権を）追い込む流れは誰にも止めることはできない」と語りました。

集会を後援した埼玉弁護士会の石河秀夫会長は「もう少しで廃案にできるところまで来ている」と語りました。

ジャーナリストの鳥越俊太郎さんがメッセージを寄せました。

連合埼玉と埼労連（全労連加盟）の両事務局長がそろって法案廃案を訴えました。

日本共産党の梅村さえこ衆院議員、社民党県連代表があいさつしました。



「戦争法案は廃案に」と声を上げる聴衆＝4日、さいたま市

思想の違い超えて 京都・宮津

戦争法案反対の声を上げようと、京都府宮津市と与謝地域（与謝野町、伊根町）の住民が5日、宮津市の島崎公園で、党派や思想・信条の違いを超えた初めての集会を行い、300人が参加しました。「戦争法案を廃案に追い込もう」と市内をパレードしました。

有吉正氏（与謝野町議・無所属）が開会あいさつ。京都共栄学園高校2年の殿田幸彦さん（16）＝宮津市＝は、原水爆禁止世界大会で被爆体験を聞き「戦争は何ももたらさないと学んだ。戦争となれば、戦地に赴くのは私たち若い世代」と語りました。福性寺（福知山市）の梅村正昭（じょうしょう）住職は「戦争で亡くなった方の葬儀はしたくない」と訴えました。

野村生八氏（日本共産党与謝地区委員長・元与謝野町議）、平野亮氏（元宮津市議・社民）が訴え、北仲篤氏（宮津市議・民主）が閉会あいさつしました。

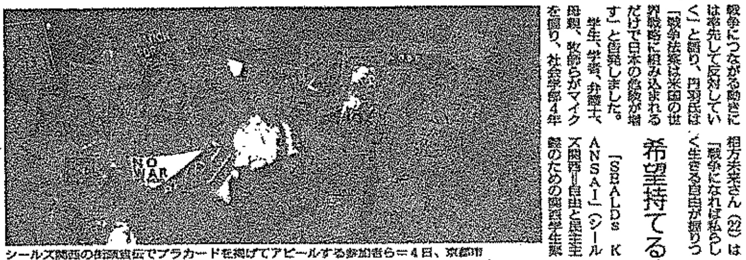
日本の危険が増す 龍谷大

戦争法案に反対する「学者・学生・弁護士の緊急共同行動」が5日、京都市伏見区の龍谷大学深草キャンパスで行われ、約200人が参加しました。龍谷大学「安全保障関連法案の撤回を求める声明」事務局、龍大9条の会、京都憲法集会事務所が呼びかけました。

同大法務研究科長の本多滝夫教授が「若者の行動に希望を感じます」とあいさつし、京都弁護士会会長の白浜徹朗氏と丹羽徹法学部教授が講演しました。

白浜氏は「かつて弁護士は戦争に反対できなかった過去があります。その反省に立ち、戦争につながる動きには率先して反対していく」と語り、丹羽氏は「戦争法案は米国の世界戦略に組み込まれるだけで日本の危険が増す」と告発しました。

学生、学者、弁護士、母親、牧師らがマイクを握り、社会学部4年の相方来栄さん（22）は「戦争になれば私らしく生きる自由が握りつぶされます。安倍総理の野望を止めましょう」と訴えました。



シールズ関西の街頭宣伝でプラカードを掲げてアピールする参加者ら＝4日、京都市

希望持てる政治に シールズ関西

「SEALDs KANSAI」（シールズ関西＝自由と民主主義のための関西学生緊急行動）は4日夜、京都市下京区の京都タワー下で、「金曜街宣アピール」を行い、500人が参加しました。

京都教育大学4回生の女子学生は「ここで全力を尽くさなければ、必死の思いで戦争体験を語ってくれた人たちの痛みが報われない」と述べました。

学生とともに、石川康宏・神戸女学院大学教授、小関隆・京都大学教授（自由と平和のための京大有志の会）、白井聡・京都精華大学専任講師がスピーチしました。石川教授は「暴走する政治から希望の持てる日本へ転換していく入り口に立っている」と強調しました。

福祉施設で働く男性（24）は「憲法と民主主義を否定する戦争法案と安倍首相を絶対に認めない」と訴えました。

プラスターを掲げ、「peace（ピース）」と訴える医師や看護師ら＝5日、札幌市中央区

白衣100人「命守る」 札幌

札幌市中央区で5日、秋晴れの下、白衣姿の医師、看護師、介護士など医療関係者約100人が、「命を救い守る医療者は戦争法案に断固反対します」と宣伝署名を行いました。

宣伝カーの上から道民医連の野村会長（医師）をはじめ、旭川の医師や介護職員らが次々にマイクを握り「平和の中で安全な医療を提供したい」「社会保障を削って、オスプレイに3600億円もかけるのは許せない」などとスピーチ。

内科医の稲木幾雄氏は「今いる子どもたち、これから生まれる子どもたちのために、命や健康を守る立場として廃案のためにがんばりたい」と訴えました。

じっと聞き入る若い女性や、自分から歩み寄り「テレビで見て安保法制はダメだと思った」と署名する小学生などの姿もありました。

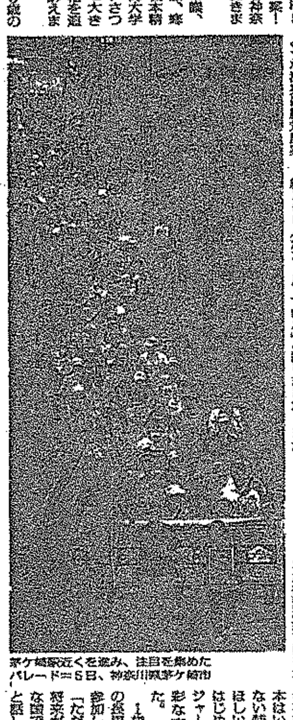
若者から高齢者まで 神奈川・茅ケ崎

若者から高齢者まで市民が結集する「安保（戦争）法案廃案！茅ケ崎ALLs」は5日、「戦争法案廃案！茅ケ崎大集会」を茅ケ崎市内で開きました。

民主党の県・市議、日本共産党の市議、畑野君枝衆院議員、[illegible]代表（[illegible]名誉教授）があいさつし、「市民の声を大きい波にしよう」と訴えました。

小3、小1、3歳の子を連れて参加した[illegible]さん（39）は「子どもたちが戦争に行くような法案は絶対廃案にしたい」と語り、両親と参加した小6の女子児童は「友達と話すことも、夢をかなえることもできなくなる戦争はいやだ」と話しました。

約300人がコールしながらパレードし注目を集めました。友人と見ていた藤原かおるさん（67）は「おかしなことにノーと声を上げたい。一般の市民が立ち上がり、変わり始めている」と語りました。



茅ケ崎駅近くを進み、注目を集めたパレード＝5日、神奈川県茅ケ崎市

戦争体験を語って 兵庫

戦争しない未来をつくろうと、「戦争させない・九条こわすな二市二町総がかり行動」が5日、兵庫県加古川市のJR加古川駅前で行われました。加古川市・高砂市・稲美町・播磨（はりま）町の九条の会、医師、弁護士、住職などが呼びかけたもので、500人を超える人が集まりました。

土肥憲規神戸大学名誉教授が基調報告。シールズ関西の山口莉子さんら4人がスピーチしました。

第1次橋本内閣で労働大臣を務めた永井孝信・元衆院議員は「戦争に美しいものはない。平和憲法をむげにしてはならん」と訴えました。

元従軍看護婦で95歳の藤田きみゑさんは、自身の体験を語りながら「二度と前途ある青少年を戦場に送らないでほしいと安倍政権に強く訴えたい」と力を込めました。

参加者らは「誰の子どもも殺させない」「戦争法案絶対廃案」とシュプレヒコール。集会後、パレードしました。

「戦争法案絶対廃案」とパレードする参加者＝5日、加古川市

マイクを握り決意 青森

青森市で5日、「みんなでとめよう『戦争法案』青森県民大集会」が駅前公園で開かれました。

集会には1400人以上が参加。青森市内からの参加者のほか、岩手県に隣接する南部地区や、リンゴの収穫が始まった津軽地区、東通原発や建設中の大間原発などが立地する下北地区の人たちなどが、バスや電車などに揺られ、何時間もかけ会場に集まりました。

リレートークでは、各地からの代表者（元教員、主婦、市職員、弁護士、病院職員）がマイクを握り「戦争法案廃案」「安倍政権退陣」までたたかい続ける決意を語りました。

また、市町村長九条の会会員でもある鹿内博青森市長も集会に駆けつけ、連帯のあいさつをしました。

集会後のパレードでは「戦争法案いますぐ廃案」「9条守れ」とコールしました。

安倍政権は退陣を 富山

「許すな！戦争法案 怒りの県民アクション」第2弾が5日、富山市の県庁前公園で開かれました。県内の弁護士、元首長、医師、歯科医師、元大学教員、僧侶、作家、音楽家、彫刻家、歌人、ジャーナリスト、市民活動家ら30人が呼びかけたもの。県内各地から500人が参加しました。

呼びかけ人の土井由三・元小杉町長が主催者を代表してあいさつ。日本共産党の、ひづめ弘子県議、社会民主党の岡崎信也県議、県民クラブの菅井和広県議、無所属の瀬谷英雄県議がそれぞれ、連帯のあいさつをしました。

集会後、参加者は「戦争法案絶対反対」「安倍政権は今すぐ退陣」などとコールしながら、富山市内をデモ行進しました。

立山町から参加した男性（80）は「自分たちの子や孫の世代も平和に暮らせるよう、何とかしないといけないと思って参加した」と話しました。

小林節慶応大学名誉教授が基調講演し、どこの集会も人があふれていて、世論の力が安倍政権を追い込んでいると強調しました。

9条守り育てよう 栃木・佐野

栃木県佐野市で5日、戦争法案の廃案を求める市民パレードが行われ、市民ら約330人が参加しました。

「戦争はゴメンだ！市民パレード」実行委員会（[illegible]）の主催。パレードに先立つJR佐野駅前広場での集会では、強行採決を絶対許さないとのアピールを採択。約2キロを歩きアピールしました。

小野実行委員長は「戦争法案反対のうねりをもっと広げ、成立させないよう最後までがんばろう」とあいさつ。参加者は「そうだ」と応え、大きな拍手をおくりました。

「戦争させない全国署名栃木県連絡会」の高際澄雄代表ら8人がリレートーク。高際氏は「法案を廃案にさせ、憲法9条を守り、育てよう」と呼びかけました。母親と参加した男子高校生（16）は「戦争はいけないこと。それにつながることは、やめたほうがよい」と話しました。

平和に生きる権利 島根

安保法案の廃案を求める島根大学人の会と、同関連法案に反対する県立大学有志の会は5日、松江市で島根県民集会を開きました。750人が参加。「法案の成立を全力で止め、廃案を」との宣言を採択しました。

大学人の会会長の北川泉島根大元学長が「日本は70年間、戦争しない国と言い、世界も認めてきた。安保関連法案が通過すれば戦争する国に百八十度変わってしまう」と訴えました。

8氏がリレートークし、浄土真宗本願寺派正覚坊の猪股慶宣氏は「憲法の、平和に生きる権利は、殺されない権利だけでなく、殺さない権利もある」と訴え。日本共産党の福住英行参院鳥取・島根選挙区候補は「若者を戦場に送る国にしてはならない」と述べました。

参加者は松江駅まで行進し、「みんなで止めよう戦争法案」と声を上げました。

3000人が広場埋める 鳥取

鳥取県米子市で4日夜、「戦争法案」「アベ政治」を許さない怒りの大決起集会がJR米子駅前で開かれ、約3000人（主催者発表）が参加しました。「戦争させない。今すぐ廃案」などと唱和しました。

連合鳥取西部地区協議会や子どもの人権広場、ゴスペルオーブなどでつくる実行委員会の主催。勤め帰りの人たちが次々と集まり、多くの若者も参加し、広場を埋めました。

同西部地区協議会の中島ちから会長があいさつし、「子どもや若い人たちを戦争にやってはならない。安倍政権を葬り去ろう」と呼

超党派で街頭演説 大阪・高槻

「戦争法案廃案！」「強行採決許さない！」と5日、大阪府高槻市で街頭演説とパレードの「大行動」が行われ、それぞれ800人が参加しました。主催は超党派でつくる「戦争させない！高槻・島本実行委員会」。

JR高槻駅前で行われた街頭演説では日本共産党の辰巳孝太郎参院議員、民主党の辻元清美衆院議員、元社民党衆院議員の服部良一氏が参加。辰巳議員は、憲法違反、立法事実もなく対米従属の法案は廃案しかない、と訴えました。

サドル（SADL＝民主主義と生活を守る有志）の若者が「日本はいつまでも戦争しない特別な国であってほしい」と語ったのをはじめ、僧侶、弁護士、ジャーナリストなど多彩な市民が訴えました。

1歳になったばかりの長男を抱いて初めて参加した女性（40）は「ただただ、この子が戦争で死なない平和な国であってほしい」と話していました。

9/6 赤旗